第 49 回筑波大学学園祭「雙峰祭」

学園祭総括報告書

目的の評価

目的の評価補足資料

決算報告書

第 49 回雙峰祭参加者アンケート

学園祭実行計画書統合版

学園祭における仮設コンセント設置場所

筑波大学学園祭実行委員会

第 49 回筑波大学学園祭「雙峰祭」

目的の評価

I. 概要

II. 詳細

I.	概要.....	1
A.	名称.....	1
B.	目的.....	1
C.	テーマ.....	1
D.	日程.....	1
E.	会場.....	1
F.	主催・後援.....	2
G.	運営組織.....	2
H.	企画.....	2
II.	詳細.....	3
A.	委員長団.....	3
B.	財務局.....	3
C.	総務局.....	3
D.	広報宣伝局.....	4
E.	渉外局.....	4
F.	推進局.....	5
G.	総合計画局.....	6
H.	情報メディアシステム局.....	6
I.	ステージ管理局.....	6
J.	本部企画局.....	7
K.	案内所運営部会.....	8
L.	英訳専門部会.....	9

I. 概要

A. 名称

第 49 回筑波大学学園祭「雙峰祭」

B. 目的

学園祭を、開学 50 周年を迎えた本学の多様な価値観を共有する場にするとともに、伝統を引き継ぎつつ時代に適するものにする。

C. テーマ

全学的な投票によって今年度のテーマは「開花」に決定した。「新たな花を咲かせてほしい！」という意味である本テーマには、学園祭に参加する企画者や来場者が、非日常的な体験ができる学園祭を通じて、様々なことに挑戦、体験することで笑顔を作ってほしいという思いが込められている。

D. 日程

2023 年 11 月 3 日(金) : 準備日・前夜祭

2023 年 11 月 4 日(土) : 本祭 1 日目

2023 年 11 月 5 日(日) : 本祭 2 日目・後夜祭

2023 年 11 月 6 日(月) : 片付け日

雙峰祭公式 Web サイトは 11 月 3 日に公開され、11 月 30 日を目途に公開を終了した。

E. 会場

1. 屋外

第二・第三エリアから体芸エリアまでのペDESTリアンデッキ沿い

2. 屋内

- 1A・1B・1C・1D・1E・1H 棟
- 2A・2B・2C・2D・2G・2H 棟
- 3A・3B 棟
- 工学系学系 E 棟
- 5C 棟
- 6A・6B 棟

- 大学会館
- 開学記念館
- アート&デザイン実習室 2
- 中央図書館
- 総合研究棟 A
- 総合交流会館

F. 主催・後援

主催 全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議(以下、全代会)

後援 筑波大学紫峰会基金

一般社団法人茗溪会

筑波大学基金

G. 運営組織

学園祭を安全かつ円滑に実行することを目的とした組織として学園祭実行委員会(以下、学実委)を組織する。学園祭全体を統括する責任者として委員長を置き、そのもとに以下の局・専門部会を置く。

- 委員長団
- 財務局
- 総務局
- 広報宣伝局
- 渉外局
- 推進局
- 総合計画局
- 情報メディアシステム局
- ステージ管理局
- 本部企画局
- 案内所運営部会
- 英訳専門部会

また、学実委は必要と認めた際に、本学の学生および教職員等の学実委外の人員をサポートメンバーとして登録し、学実委の業務を委託することがある。

H. 企画

当日行われる模擬店、イベント等を指す。学実委が中心となって行う委員会開催企画、ステージを使用するステージ企画、委員会開催企画・ステージ企画に該当しない一般企画に分類する。

II. 詳細

A. 委員長団

2. 各種規則の制定

企画団体に対して禁止事項を設けたが、企画団体からの申し出もあり協賛の有無のほかに企画宣伝に関して新たな規制が必要と思われた。

7. 参加者を対象としたアンケートの実施

参加者アンケートを実施し、1763 件の回答を得た。内容については、「目的の評価補足資料」を参照。

B. 財務局

3. 運営資金の調達

全て学園祭実行計画書統合版（以下、実計）に記載の通り行った。ただし、学分明金集金では学生個人からの振り込みの方法を採用した。弊害として個別のメール対応、振込確認などの負担が大きくなった。

4. 企画団体物品支給制度の実施

個別支給を希望する団体は 1 団体のみとなった。一方全体支給は支給団体、支給希望物品ともに昨年度よりも大幅に多くなった。予算の負担も大きいことから来年度の実施にあたっては、内容の変更も含め再考が必要である。

6. 決算報告書の作成

総括と同時期に作成を行った。また作成にあたっては、12 月中の提出を行うため 11 月中の決算の完成を目指したが、支払い業務が完了していない局も多く、困難が伴った。

C. 総務局

5. 企画団体への各種連絡・指示

(2) 企画団体責任者連絡集会(以下、企団連)

実計には企団連の実施回数に関して、「9 回のうち、4 回を対面で行い 5 回を雙峰祭オンラインシステムにて開催する。」と記載したが、実施の必要性がないと判断したため、雙峰祭オンラインシステムにて公開予定であった第 5 回企団連は実施せず、全 8 回の開催となった。

D. 広報宣伝局

1. 広報宣伝活動

(3) 横断幕の設置

横断幕に張る日付部分を張り付ける用意が遅れてしまい、掲示開始が 10 月 18 日(水)と遅れが生じた。来年度以降について、再発防止に努める。

(4) 公共交通機関への広告掲示

時間的余裕がなかったため、アクセスマップ等を循環バスのバス停やつくば駅構内に掲示・配布することは行わなかった。

(5) 学内の広報宣伝活動

図書館展示

実計にはポスターの設置とあるが、カード立てを設置したためにポスターの掲示は必要ないと判断し、設置しなかった。

7. マップの制作・管理

パンフレットに地図が掲載されているため行わなかった。

E. 渉外局

1. 資金調達

(1) 一般協賛

企業が要望する変更が十分に行き届いていないままの広告がパンフレットに掲載されたことが発覚し、当日は訂正紙に正しい情報を記載した広告を掲載しパンフレットと併配した。

(3) 構成員援助金

本学の教職員・役員に対して、学園祭への資金援助を依頼した。教員に対しては、主にオンライン会議に同席して寄付をお願いした。また、援助金は振込での受取と研究室に直接赴いての受取を行った。事務職員・役員に対しては、各事務室等を訪問して寄付を依頼した。

2. 物品調達

企業等の団体から、学園祭運営に必要な物品の提供・貸出を受けた。同時に、企業等の団体へ学園祭開催についての周知を行った。

全国の様々な企業に協賛を依頼し、提供を受けた物品は、委員会開催企画である福引

所、TSUKUBA COLLECTION2023、雙峰祭グランプリにて景品として使用した。

3. 福引所運営

参加者アンケートに回答した来場者を対象に福引所を運営した。両日併せて、1900名ほどが参加した。

F. 推進局

1. 保健衛生の管理

(2) 保菌検査

事前に飲食物取扱い企画として申請していたが当日に調理を行っていた企画があったため、警告書を発行し飲食物取扱いとしての企画実施形態に変更させた。また、調理企画構成員証未着用について複数回注意しても改善が見られなかった企画に警告書を発行した。

(3) 検食

当日、検食を時間内に完了しなかった企画に警告書を発行した。

(4) 消毒液の配布

調理企画に対しては配布を行ったが、飲食物取扱い企画には配布していない。

(5) 食品の回収

実計には本祭一日目の企画実施終了後と記載したが、それに加えて準備日にも食品の回収を行った。準備日の食品の持込みは禁止していたが、準備日に食品を持込み、かつ企画実施場所に放置して帰ろうとしていた企画がいたので、警告書を発行し食品を回収・保管した。今年度は食品保管庫を用意せず、調理センターで回収した食品を保管した。また、企画実施場所に申請外の酒類が放置されていた企画に対し、警告書を発行した。

(6) 仕込み場の提供

仕込み場で危険な食品・調理器具の取り扱い、不衛生な服装での調理が見られた企画に対し、警告書を発行した。

2. 各種物品調達

(6) ガス

ガスボンベを破損させた企画に対し警告書を発行し、弁償代を請求した。また、企画実施場所に長時間ガスボンベを放置していた企画に対し、警告書を発行した。屋内

での火器の使用が見られた企画にも警告書を発行した。

G. 総合計画局

1. 会場配置計画

(1) 企画数制限の実施

応募した企画が多かったため、屋内企画に対して企画数制限を実施した。制限された企画のうち、希望した企画は屋外での実施を認めた。

(2) 学園祭当日の企画実施場所及び企画実施日程の決定

企画実施場所及び企画実施日程を決定した。希望した企画には単日開催を認めた。

2. 電気計画

仮設電源

1A ステージでの電力の使用を可能にするため、仮設電源を一つ追加した。

(1) 仮設コンセント

設置場所と規模については「学園祭における仮設コンセント設置場所」を参照。

4. 美化計画

2A 棟前芝生臨時ごみ箱・5C 棟軒下臨時ごみ箱は捨てられるごみの量が想定を上回ったため、可燃ごみと生ごみの臨時ごみ箱を増設した。

H. 情報メディアシステム局

1. システムの開発・保守及び情報基盤の維持・管理

(4) 当日の通信インフラの構築・管理

生中継のため、理科系修士棟 A 棟において学実委専用の光ファイバを敷設した。

(5) 学実委で使用するシステム等の開発・運用

投票システムは他局の意向により開発しなかった。

I. ステージ管理局

2. 企画団体の情報管理

一度全ステージ企画責任者への一斉メールを送信した際に誤って他人のメールアドレスが確認できる設定で送信してしまう事象が発生したが、そののち即座に各企画責

任者に対し謝罪文を送信した。翌年以降は、メールの使い方についての指導を徹底させる。

5. 本祭における各ステージの管理・運営

(2) 大学会館

企画番号 S081 筑波大学競技ダンスサークル舞研による「社交ダンスパフォーマンス」について、企画側の都合により企画を辞退した。

それ以外の企画に関しては実計に記載の通りに行った。

7. 雨天時対応

後夜祭の雨天時判断を 17:55 までに行うと記載されているが、後夜祭開始予定時刻が 17:50 であったため、雨天時判断を 16:30 に行った。

今年度の学園祭では実施期間中降雨がなかったため、雨天時対応は実施しなかった。

9. 警備

企画番号 S084 つくばフォーク村による「つくばフォーク村」実施中、当団体 OB によるステージ前での胴上げ行為が発生した。企画には嚴重注意を促した。

本祭 1 日目、石の広場周辺でウイスキーを持っている人を発見した。周辺への影響は無いと判断したため、特殊な対応はせず、UNITED ステージでの警備を増員し対応した。

10. 花火の打ち上げ

(5) 周知

① 回覧板

花火打ち上げ現場より半径 3.5km 圏内の区域の住宅に回覧板を回す予定であったが、区会抽出の手間を考慮し、市役所の担当者の方と相談したうえで回覧地域を「谷田部・桜のうち、竹園東小学校・竹園西小学校・春日学園義務教育学校・吾妻小学校の各小学校区」に変更した。また、回覧時期を 9 月中から 10 月初旬に変更した。

③ 打ち上げ場所周辺駐車場利用者への注意喚起

注意喚起のポスターを設置せず、代わりに 11 月初旬に残骸飛来の危険性等を周知する看板を設置することで対応した。

J. 本部企画局

1. 学術企画部門

(1) 受験応援

両日合わせて 400 名ほどが相談会に参加した。

(2) つくばイチ受けたい授業

両日合わせて 500 名ほどが参加した。

(3) 実験教室

両日合わせて 600 名ほどが参加した。

(4) つくば研究紹介

両日合わせて 420 名ほどが参加した。

2. 来場者参加型企画部門

(1) 脱出企画

両日合わせて 119 組・343 名が参加した。

未就学児 1 名がそばたんを救えなかったことにより悔し泣きするという事象が発生した。

(2) 樽酒振る舞い

両日合わせて 1284 名が参加した。

3. 夜祭企画部門

(1) TSUKUBA COLLECTION 2023

ヒューマンエンパワーメント推進局よりルッキズムの助長と性の多様性への配慮に関する懸念のご意見を頂戴したため、ヒューマンエンパワーメント推進局と学生生活課との三者面談を行い、企画実施内容の改善については来年度以降本格的に取り組んでいくという認識を再確認した。そのうえで今年度の対策として、司会者原稿の内容に多様性を欠くような要素がないよう十分に配慮することと、SNS で差別を助長するような発信をしないよう注意を行った。

参加者アンケートにて「TSUKUBA COLLECTION 2023 は多様性に配慮したものであるか」の項目を設け集計を行ったところ、「配慮していると思う」「少し思う」の回答合計数が全体の 63.4%であった。詳細は「目的の評価補足資料」を参照。

(2) つくばお笑いライブ 2023

今年度は対面で開催したため、オンデマンド開催の昨年度と比較して好評であった。

K. 案内所運営部会

1. 案内所の運営

(1) 通行者数の調査

実施方法は10分間案内所付近の場所で往復する人の数をカウンターで調査した。

一日目についてはかろうじて調査を行うことが出来たものの、二日目は来場者対応と企画者対応で手いっぱいとなり行うことが出来なかった。

この事案が発生した理由として、案内所のシフトに入る人員が確保できていなかったことが挙げられる。来年度からは今年度の実情を鑑みて案内所のシフトを作成していきたい。

① 通行者数の調査結果

調査結果は前夜祭が657人、一日目が約16663人であった。合わせて、約17320人であった。11月3日(金)は前夜祭の開始が18時20分であったため観察開始時間を18時とした。11月4日(土)10時から20時まで企画実施時間であったため、10時から19時まで調査を行った。予定では20時も行う予定であったが企画撤収時間と重なり企画対応という案内所の業務に支障をきたすと考え、行っていない。

L. 英訳専門部会

外部向け資料の英訳を実計に記載の通り行った。